

組合員数106,808人
支部数 943
読者数 66,389人
(連絡先) ☎03(5978)2751 FAX03(5978)2777
E-mail/honbu@nenkinsha-u.org
ホームページ/年金者組合と入力し検索して下さい。

(5日現在)



第391号 2022年7月15日(金)

(通巻第590号)

全日本年金者組合中央本部

〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル
発行人 杉澤 隆宣 月刊1部100円(組合費を含む)
昭和57年6月30日第三種郵便物認可

岸田首相! それでも年金けずりますか

物みな上がる中、年金だけは引き下げられる。「これでは生きていけない」の思いをぶつけようと、年金者組合は「岸田首相への手紙」を組合員に呼びかけ、

全国から1400通を集約、記者会見しました。中央本部には「その通りだ、年金者組合に入りたい」「頑張って」の電話が相次いでいます。(2面に関連記事)



寄せられた「首相への手紙」には悲痛な叫びが……

「首相への手紙」全国から1400通

低年金の看護師 食べるだけで

私は夫をがんでなく、30年間一人で働いて子供を2人独立させました。看護師を正勤で60歳まで働きました。手当はいろいろで、夜勤、残業、

役職手当等です。でも基本給は、医療の職場では診療報酬が低くなかなか上がらないので、年金をもらうようになって、基本給をベースにした年金の低いことを実感しています。このうえスライ

夫の年金は施設医療費で消える パーキンソン病の夫

(79歳)と娘 一家(4人) 計6人で生活している。高

老健や病院代: あと何年続くか

(東京・78歳)

ことを知っていますか? やっと42年働いても、食べることで精一杯、趣味など考えられません。(佐賀・75歳)

年金のカット、75歳以上の医療費が2倍となったら、ますます生活は苦しくなって生きていられない。軍事費削り、年金を下げないで。

スーパーの値引き 特売あさる日々

私は内科、眼科、歯科の3つの医療機関に通院しており、3カ所とも重なる薬代も含めて窓口負担が1万円になってしま

体ガタガタでも 食堂やめられぬ

75歳9カ月の主婦です。国民年金と厚生年金をもらっていますが、月額7万円弱です。通帳に入りますが、電気代、携帯電話代、保険料(後期高齢者・介護保険)が引かれて、年金をおろして使うなどほとんどできません。

食卓の売上げで補てんすることがほとんどです。

昨年・一昨年にコロナ対策で頂いた休業手当で、それまでマイナスだった残高が初めてプラスとなり、細々と食べつないでいます。

体中にガタが出てお店をやめたいのですが、腰をかかめ、痛む足やヒザを引きずりながら続けています。年金を増やして下さい。削るなど死ねと言つのも同じです。こんな暮らしを見て下さる。 (静岡・76歳)

風雪

▼なじみのない文句、用語を使つて、自分の主張を権威づけるのは、権力者やエセ学者の常とう手段である。江戸時代なら漢籍。「中庸之徳也、其至矣乎」と書けば、「人間かたよらないのいい」とわかりやすいくうより、高尚そうだ。

▽現代は外国語。「沖繩のマリーンのプレゼンスとアクティビティが、安全保障にインディペンデンスであり、ニュークリア・シエアリングも不可欠」と説明されると、「米軍基地は必要、日本の軍備増強も」と思わされてしまう。

▽経済なら数式。文字でも説明できることなのに「 $\Delta Y/Y \parallel \Delta A/A + \Delta K/K + (1-a)\Delta L/L$ 」などと示されると、「エライ先生がいうんだから」と、貧困・格差拡大の政策を見過ごしてしまふ。

▽思考回路の出発点に「自分のくらし」仲間の実情」を据えなくては判断を誤る。御用学者や役人にダメされてなるものか。



「私は不要なのではないですか」 大阪 共同記者会見で訴える

年金者組合大阪府本部は6月11日、大阪生活と健康を守る会、大阪労連などとともに「低所得者のくらしの実態を訴える共同記者会見」を行いました。年金者組合からは津村裕子さん(写真)が「貧しくて体力のない私は不要なのではないですか。高齢者にもやさしい政治を希望します」と低年金の苦境を述べ、関西キー局の毎日放送ニュースで「生活保護受給者らの窮状訴える コロナで生活ひっ迫」と放送されました。

築30年の我が家 傷んでも直せず

在職中に建てた家も30年近く経って屋根、ベランダ等いたみが激しくなりました。電化製品も同じく経年劣化しています。高額のお金が掛かるので新しくできないままです。

自宅手放すことも考えなければ

夫が抗がん剤治療を受けていますが、辺鄙な場所あり、74歳になってアル

少ない貯金を切り崩してやっていますが、いつまでできるか不安です。将来、自宅も手放すことも考えなければなりません。

静岡・76歳